

表 2. 10 年間に学会誌に掲載されたシリーズ

分類	テーマ	回数	開始年	終了年
視点	第一線で活躍する家政系出身者から	46	*	2001
視点	<家政学関連>研究・教育機関紹介	19	*	2000
講座	ネットワークの利用について	3	1998	1999
視点	関連領域から家政系大学のスタッフとなって	19	1998	2001
講座	暮らしと安全	30	1999	2003
講座	事例研究法をめぐって	9	1999	2001
講座	データ解析入門	3	2000	2000
講座	こどもをめぐる人間関係	8	2000	2001
視点	今 家政学系大学は	15	2000	2001
視点	家政学をになう家政系出身者から	13	2001	2002
シリーズ	家政学と暮らしの関わり	8	2006	2006
シリーズ	くらしの最前線	48	2007	*
シリーズ	研究の動向	8	2007	*

始まった「第一線で活躍する家政系出身者」は6年に及び46回を数える長期シリーズとなった。なお、2001年から2007年までは、学会の方針によりこうした記事は掲載されていないが、2007年から再開した。

(4) 投稿・審査方法の改善

① 審査期間の短縮：審査員2人で審査され、両審査員がAの判定をしたものが掲載、B判定では修正によりAになった場合に掲載、D判定では却下となる（論文審査は論文審査内規より）。B判定の場合は、審査所見に基づいて修正されるが、この間の投稿者と審査員との間のやりとりで長い期間を要することが課

題であった。そこで、審査の迅速化を図るため、第1回目の審査で出した修正意見に2回目以後に別の所見を加えることを禁止、審査期日の遵守のための督促、審査終了が締め切り期日を大幅に延長する場合は審査員を変更など、マニュアルの励行を徹底した。

② web 投稿の導入：郵送での審査やりとりは、経費と時間がかかるため、そのやりとりがインターネットで可能となる、J-STAGEで提供しているweb投稿システムを導入した。これにより、投稿、審査員とのやりとりの時間が短縮され、経費も削減されると期待される。（詳細はweb立ち上げから実施までを参照。）

Web 投稿立ち上げから実施まで

お茶の水女子大学 大 塚 譲

家政学会誌の編集委員会で編集作業の簡素化が検討課題になっていましたが、大竹編集委員長時代に、カメラレディーよりもweb投稿・審査システムを導入することが決まりました。独立行政法人 科学技術振興機構が提供しているJ-STAGEのシステムは無料であり、多くの学協会が既に利用をしている実績もあり、家政学会でも既に要旨集入力と公表に利用していることなどからJ-STAGEを用いる事となり、web投稿・審査システムについてJ-STAGEとの打ち合わせが始まりました。ところがJ-STAGEを利用して投稿・審査を行うためには既に発刊されている学会誌をJ-STAGE上で少なくとも2号分は公開していなくては

ならないことが明らかとなり、急遽学会誌のweb公開を進めることとなりました。印刷会社との交渉やアップロードするファイルの作成を引き受けてくれる会社との交渉は委員長が担当し、ようやく予算の範囲内でweb公開ができる目途がつけました。何度かのJ-STAGEの説明や打ち合わせ、及び実際に運用を行っているソフトウェア会社との打ち合わせを行った後、平成20年の1月に「委員長制B」で行うことを編集委員会で決定し、J-STAGEに細かいwebのフォーマットの情報を提出いたしました。その後こちらから提出したフォーマットに沿ったweb投稿・審査システムが完成したので、第1回目の試行をJ-STAGE委員会

のメンバーで行いました。それぞれの委員がテスト用の投稿論文を投稿し、それを編集委員役になって処理し、次に査読者役になって査読を行い、審査報告書を提出し、それを委員長が決済することを5通りのパターンに沿って試行を行いました。その結果マイナーな修正点が見つかり、その点の修正をJ-STAGEに依頼いたしました。

J-STAGEと打ち合わせをしていく中で、現行の投稿規程ではwebで公開した場合に著作権の問題や、論文のpdfファイルの再配布の問題などがあいまいで、投稿規程や投稿の手引き等の変更が必要となることが判明しました。そこで投稿規程や投稿の手引き等の見直しを、審査方法検討委員会でJ-STAGEからの提案を基に、検討を重ね、ようやく新たな投稿規程や、手引きを編集委員会で制定しました。

平成20年8月末から編集委員全員によるweb投稿・審査システムの第2段階の試行が始まり、編集委員全員でこのシステムについて検討を加え、概ね問題がなさそうであったので、J-STAGEと打ち合わせをし、平成20年12月末から正式運用を開始することとしました。正式運用までに既に発行している学会誌を家政学会がJ-STAGEのweb上で公開しなくてはならなかったのですが、正式運用1カ月前になってようやく採択された論文が学会誌に印刷された後に、印刷業者からpdfファイルを手に入るとともに、テキストファイルの提供を受け、web公開用のファイルを作成する手順が整い、2007年の4号までがweb上で公開されました。ここでようやくweb投稿・審査システムの運用に必要な準備が完成したわけです。

次の問題は運用に当たって編集委員と査読者のデータベースをある程度用意して、論文が投稿されるとすぐにでも編集・査読作業ができるようにすることでした。そこで最初に査読者として登録してもらった先生方の情報を集めることとして、査読者を編集委員やいくつかの部会、支部に呼びかけて登録の依頼を行いました。査読者のデータベースを作るに当たってはご本人

の了解が得られた方のみを登録することにしました。その結果約230名の査読者からメールアドレスやお名前、審査分野、審査キーワードの情報をいただくことができデータベースとしました。12月の運用開始と同時にこれらの先生方をweb審査システムにアップロードして登録しすぐに審査ができるようになりました。

このようにしてweb投稿・審査システムが稼動し、運用を始めましたが、今後家政学会会員に投稿の仕方や、査読のやり方など広く広報活動を行う必要があると考えています。また運用を開始して、いくつかの問題点が既に浮かび上がってきていますが、それは家政学会の編集委員会の役割、位置付けにも関することであり、編集委員会で議論しながらよりよい運営を目指しております。また現在のシステムは投稿・編集作業を主として念頭においたものですが、編集委員会の仕事には雑誌の印刷とweb公開という作業もあり、現在のシステムが印刷と公開にどのような利点と欠点があるかはこれからの問題であります。従って今後さらなる改良を進めていくと同時に、本システム全体を運用できる編集委員をできるだけ増やしていくことも必要であります。なおこのシステムの運用には編集事務局の役割が非常に大きく、現在の編集事務の担当の方にはweb公開が始まるまでJ-STAGEとの打ち合わせに出席していただき、大変お世話になりました。また運用の試行やweb公開用データ作成などの打ち合わせに現委員長・副委員長、前委員長をはじめとする編集委員の先生方のご努力・ご協力無しには完成しなかったものであり、この場を借りてお礼申し上げます。

J-STAGE 委員（2008）大塚 譲、藤原葉子、山口庸子、松本暢子、久保桂子、砂上史子
（2007）大塚 譲、山口庸子、久保桂子

編集委員長（2008）佐々井啓（2007）大竹美登利
編集副委員長（2008）香西みどり（2007）佐々井啓